

ヒメサナエ

兵庫県：B

Sinogomphus flavolimbatus

環境省：—

種の概要

腹長31～34mm、後翅長24～28mm程度。翅胸前面の背隆線に沿う黄色部がT字状を呈する。腹部は黒色で、背面と側面に黄色斑がある。山地の勾配が小さな溪流に生息し、齢期の進んだ幼虫は川を下って下流で羽化し、成虫は移動して上流で産卵する習性をもつ。そのため上流域から中・下流域まで良い環境が保たれている必要がある。成虫は5月～8月に見られ、羽化した成虫は上流部の樹林帯に移動する。



写真提供：青木典司

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

姫路市、相生市、豊岡市、赤穂市、三田市、養父市、丹波市、朝来市、宍粟市、たつの市、多可町、神河町、上郡町、佐用町、香美町、新温泉町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
		○	○		○

特記事項

樹林に囲まれた河川の上流域で繁殖活動を行う。繁殖場所に特別な環境要素があるわけではないが、どこの上流域にもいるわけではなく、分布はかなり局限されている。どんな環境要素が分布を決めているのかは不明である。羽化場所がその河川系の中流域で、幼虫が河川を流下移動することが知られているので、その移動性の可否が影響しているのかもしれない。そうだとすれば河川系全体の自然度の高さが要求される種ということになる。生息地を横切るような道路建設が行われたことがあったが、流れや周辺の植生にできるだけ手をつけずに工事が行われ、見事に復活した例がある。

保護上の留意点